

海軍

一七ノ

明治四十五年七月六日

大湊要港部司令官藤本秀四郎

海軍大臣男爵齋藤實殿

軍艦浪速遭難ニ付驅逐艦朧派遣報告ノ件

軍艦浪速遭難ニ関シ去ル明治四十五年六月二十六日午前十一時千島

列島ノトノ島附近ニ於テ坐礁セル旨今日午後十一時三十分全艦

艦政本部

ノ電報第三番シ直ニ第四驅逐隊司令ニ訓令ニ警備驅逐艦

朧ヲ派シテ救助ニ付急速に出港準備ヲナシメタリ而シテ糧食

被服救難材料並ニ潜水夫職子ヲ搭載便乗セシメ翌午前六時

經理局

分諸難詳備ヲ完成シ直ニ出動セシメトセシメ偶濃霧ノ為

0905

四 7-10

7.10

出港スルコト能ハズシテ以テ其晴ルヲ待ケル日午後二時三十分
 漸ク遭難地ニ向ヒ出港セシメタリ然ルニ午後三時海軍次官ヨリ
 遭難地ニ向ケ驅逐艦ノ派遣見合セ若シ嚴島載炭等爲室蘭
 等ニ入港スル場合アラハ派シ得ルハ當部ヨリ潜水夫職ニ其他救
 難材料ヲ準備シ全艦ニ便乗搭載セシメテ度旨電報アリシ
 ヲ以テ急速馳歸港ヲ命シ更ラニ救難材料ヲ補充搭載セ
 シメ又嚴島ニ對シ室蘭寄港ノ有無ヲ確メ今午後七時四
 十分室蘭ニ向ケ出航セシメタリ
 驅逐艦ハ平八日午前六時五十分室蘭着今午前八時
 人員並ニ救難材料糧食被服等別表ノ通嚴島ニ移載シ
 今日午後零時三十分之ヲ終了セシメ當日濃霧ノ爲出港
 ヲ止メ翌二十九日室蘭発午後三時十五分當要港ニ帰着キ
 右報告ス

終

0906

派遣潜水夫職工

品田勇次郎

大澤松之助

山本勇藏

甲兼五郎

福島寅之助

田中子之助

被服物品

品名	数量	品名	数量
下士卒外套	六〇個	甲丙部襦袢	五〇個
貸典老布	貳〇〇個	袴下	五〇個
乙部禮服帽	五〇個	靴	五〇個

毎

匁

0907

了 イ ホ ル ト	假 留 ホ ル ト 上 屋 屋	假 雷 ホ ル ト	瀝 青 瓊	合	欽 丸 釘	杉 板 割
-----------------------	--------------------------------------	-----------------------	-------------	---	-------------	-------------

産 の 本	産 の 本	産 の 本	産 の 本	産 の 本	産 の 本	産 の 本
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

其 他 雜 名	横 肌	杉 板	杉 板	大 工 道 具	潜 水 器	鉄 鋸
------------------	--------	--------	--------	------------------	-------------	--------

四 好	五 好	五 好	産 の 本	産 の 本	産 の 本	産 の 本
--------	--------	--------	-------------	-------------	-------------	-------------

海

軍

横濱分社印刷

0909

伊豆

軍務局

艦政本部

軍令部

横濱別荘之官送指七、七

明治四十五年七月十五日

南運船長

志山海軍者副友友

浪連船一海之付之既之丈し、考知、部告投見

サレ事、信スレ此本取、目撃、之ん事、決、許、後、差、別

ナク重信ノ嫌、尸、之、佛、差、也、近、之、別、紙、ノ、面、下、

右、通、報、ス、第、三、部

第、四、部

第、一、部

第、二、部

第一班
第二班
第三班

第、一、部

第、二、部

第、三、部

第、四、部

第、五、部

第、六、部

第、七、部

第、八、部

四

7-23

二

12/24

45.7.18

0910

一知里係以島ノ状況及天候等

知里係以北島ノ火山島ニテ山頂山腰所々より噴火シ居ル硫黄ノ山腰ニ顯ハレ居ル
全島樹木多ク鏡ノ突起ニシテ熔岩夥シク僅ニ甚岩間ニ苔及異株ノ草類繁
茂シ熔岩中ニハ多少鉄銅ヲ含有シ居ルニ如シ砂湾ノ圍山腰ノ裾ニ家分ノ
傾斜ニ平田アリ海崖ニ砂湾ノ圍ニ細所僅カノ砂濱見ルニテ多少ク断
崖絶壁ナリ絶壁ノ下ニ巨岩大石散乱シ昆布若布株ノ海草ニ三丈余
ルノアリ又砂湾ノ圍及其反対ノ地ニ流木直径一尺ヨリ八寸内外ノモノ堆積シ
目分屋ニテ約四百本位ナル如シ今回浪速浮揚ノ事ニ浮カトシテ使用スル
味セリ

砂湾ニ東ヨリ南東ニ露露シ居ル北風ノ充分防クニテ得レトモ長湾ノ絶ニ
入込ノ様ナリ其北東角辺ニ多少ノ潮流アリテ見受ク

天候ノ滞留中先ツ靜穏ニシテ次第ノ去来定コラス且向ニ多少ク南東東

(横須賀市中印行)

本油給...者あり...
秋科ト...
○

軍務局

8. 3

中印行

多クハ	濃霧	泡四十五	多凡	所ル所	廣	附	ルコト	多クハ	多クハ
-----	----	------	----	-----	---	---	-----	-----	-----

0913 0912

等ニテ無風ヨリニ至ル等ニ霧ノ去来ニテ方向ヲ變スル如シ又夕朝ノ多クハ
濃雨降ルトモ午前十時頃ニ至リハ女時同夜露降ルル通例トモリ終日濃霧
ナルトハニ三日アリタリ然レ北風西風ノ内強トモ霧降ル来ス月下気温四十三
度海水温度四十一ニ夜ニテ昼夜共ニ寒氣ヲ覺ユ

浪連船底ノ海水温度三十分位初作レテ休ムト多ク凡
ナリ又船ハ長溝ノ下ノ絶ハス上下ニ動揺スルヲ以テ船底ノ岩石ニ撞着シ居ル
潜水者ニ手ノ辨ケ標ナク其上昆布標ノ海草ニ繋ぎシ水草ノ邪魔ニ
ナリ船底検査ノ始メ之ヲ薙リタリ然レ潮流風ノ具右左ハ浪連附近
ヨリ此海岸ノ北ニ去ス流艇ノ動ク度ニ相違標ノ差ナク動ク勢ハサレヨ
儀生ニテヨリ

本艇船匠師ハ舟儀脚船匠手ノ油燭ハ不手際ナレバ大霧ヲ見ルニ可ナリト
思ヒ進速ニテヨリ

二通信

(横須賀田中印行)

0913 0912

和軍保以島を在りし強力を南東丸が無線電の送石トの完全な状態ヲ
 通信云ルコト稀シク日中ノ全ク不通ニ夜同時ニ通信スルノ其地迅速ニ武
 装、最島等ノ全然不能トスルモ不可ナシ時々千島列島附近ヲ通過スル
 郵船東洋商船等、後船ノ中継ニテ送石トノ届ク位ナリ故ニ駆逐
 艦一隻ノ遠征地ニ置キ時々通信糧食其他用渡弁ヲ兼テ根室等ノ
 次那ト交通セルルニ因テ必要ナルコトナレ但シ此ノ任ヲ執ル駆逐艦長ハ
 業務ニ對シ注意ト未測星ノ地ヲ航スルニテ航海上氷帯ニ懐慮ナシ注意
 フ排シテ航長タル要スル申入直ニテナリ機指ヲ要スルナリ武裝艦長ノ定
 額及方回行動ニテ小生ノ實際ニ依リ列島ノ西岸ヲ航スルトナリ比較
 要務ナク妙ニ所シテ島ト島ト海峡ニテ常ニ要務アルコト心得テ居マシト
 思ハル

送石ト通リ掛リノ舟航後船ニ對シ迅速南東丸等より通信ス際
 通信云ノト度々ナリ當方ハ急速ニ通信セト企圖スルノ係ラス徒ラニ

(横須賀田中回行)

之カ方メ時々當云コトヲキテ認メテ若シ本者ヲ右周係ノ向キニ知里係
以島ヲ登陸スル際ハ何ハ掛ヲ捨キ登陸スル様命シ是カレハ好都合
尤ハキカト思ハラス

三軍艦一隻ノ必要等

目下ハ浪速ニ若一着ヲ救助作業ニ較ヤ先付キ重量物運搬等兵員ノ
手ヲ要スルコト薄キ来シトモ浮揚工事ニ関係シ多ク人カヲ要スルコトアリ
之ハ浪速ノ兵員之間ニ今ハ場合ニアレトモ時ニ一層ノ人ヲ要スルコトモ
且第一暴風未だ浪速右舷堂下部ヲ破ル場合ハ沈没ハ免ルハカサ
リ此危急ノ場合ヲ考慮シ人命救助トシテ端艇派遣等ノ段目ヲ執ル
方々母艦一隻アラハ好都合トシテ思ハル

去ル九日彈藥庫掌帆倉庫等内部アリ防水スルハ決シ愈時目永
引リト見スルニカ田艦長ニ勸告シ今迄ノ繋留ニホーサーヲ使
タルハスチールワイヤーニ代フコト也(材料不足ノ多ク或モ水面迄)且後

(横須賀市中印行)

5 海軍

新ニ大船ヲ増設セリ七時ハニブありしハ若シニ摩損ノ爲メ二月ニテ切斷シ
見テ以テ一層感ヲ深フシヨリバヤリ現狀ニ比較的長時ヨリ整留ノ堪ニキ
カト思シ凡海底岩石ニテテ摩損シルハ燃カシハ斷言ハ出来ズ難然ニテ
引引ニ信ヒ「スチールワイヤ」ノ不足ヲ感ズニ至ルキヲ恐レ其ナリ
四浮揚ノ事ニ就キ

本月の末月の千智引船附近の比較的暴風女子が静穏な季節となり
之が月中ニ考査セシメ本月中ニ一通り底急防水シ終ルノ覚悟ヲ爲スニテ
+ 後々九節ノ速カラテ欄座セニコトナレバ「キール」附近ハ云ハスシテ其横傷
ハ大ニシ船長ヲ親ク圍テ所ニシテ「浪手」帆脚彈藥庫ニ咎^理を解リ
浸水線々ナリシ趣キナレバ其右同斷テ長時ノタメ動揺シ居シハ「リ」
「リ」如キニ或ハ切斷シ或ハ弛ム等モ思フ事ナレバ七日前水ニ浸リ
効ナキニ蓋シ其結果ニ信ルキカト思ハル遺憾ナリ「リ」外ニテ
横傷ノ全部ヲ見出ス能ハシハ内部ヨリ大々島ニ防水説リ外ニテ

(横須賀山中印行)

0915

思ふに内底、機操を分らせしに外に手付け機操ナラざるに據る扱士に
 其方針尤如し、索橋ノ威力振ハサリ、左舷ニ機身モ右舷石瓦ト長
 溝ノ者ト不致、余儀ナク右舷ニ機身ケラズん、此等ナルニ然ル内ハ、ボトノ長
 サニ舷門ヨリ前部ノ彈藥庫近行カスレテ、抑込之カホナ、ホトガレ
 不良又ニ継中目不良等ニシテ、巨力発揮ニ至ラズレタム(ワトク)一ラレ
 一度能進ノ曉ニ直ニ破湾ニ移シ、繫留シテ外部ヨリ防水スルコトニ決シ
 破湾ニ入リ、支シテ繫留勿得、船ハ整ハ居レリ、然レ上自力ニテ航シ得ル其
 時ノ機操ニヨリ、機操等ニテ入場スルカニアルニシ

(横須賀海軍中隊)

回答書ニハ本書ノ日附及番號ヲ記載セラレタシ

通書第 六之七號

大正元年九月六日

海軍省軍務局長殿

遞信省 通信局長 印

浪東船遭難者討ノ通信状況

供覽

浪東船遭難者討ノ通信状況
及ばたあま丸無線電信局
及ばたあま丸無線電信局
及ばたあま丸無線電信局

第五

第八



0917 9-12 1.9.0

海防の報告

浪速艦ノ遇難ト通信状況

本月二十六日午後八時五分浪速艦ハ SOS 示ル危
 急符号ヲ連發シ当局ヲ喚呼シ表レリ之レ全艦ガ併
 艦カ今日午前十一時千島ヲロトシ島東側ニ於テ坐
 礁セシユトヲ報スルノカ一信ナリキ吏員ノ全情ハ
 才一ニ通信上ニ表ハレ来レリ如何ナル障碍ヲ排シ
 テモ本件ニ關スル通信ノ完全ヲ期セシト熱中セリ
 而シテ程ナク軍艦武藏并ニ嚴島ハ浪速艦救助ヲ命
 ジラレ亞イデ工作船閑東丸及ヒ栗橋丸ハ現状ニ急
 行修理ヲ令セラレ之等ニ往復スル電報ハ刻々増加
 シ和フルニ地洋丸ハ桑港ノ方面ヨリ二十七日夜入
 園シ佐渡丸并ニミ子ソタ号ハシアトル方面ヨリ

カゴ丸ハ横浜方面ヨリ何レモ二十八日夜入圏シ且
 ツ沖繩丸、パナマ丸等ノ在圏スルアリ当局ノ通信
 量ハ急激ニ増加シ月末ニ至ルモ此ノ状態ヲ持續セ
 リ
 今二十六日以降三十日迄五日間ノ無線電報通数ヲ
 見ルニ和欧文合計一九三ニ通シテ取テ多量ト云
 フニ非ラザレドモ、内海軍艦船ニ發着スルモノ七
 十九通ヲ含ム由未通信速度緩慢ナル海軍通信ハ斯
 カル際特ニ遺憾多ク通信容易ニ進捗セズ加フルニ
 空中電気ノ妨害ハ時ヲ選ハス未襲シ他局トノ通信
 亦未リ加ハリ二十六日以降ハ稀ニ見ルノ奮闘ヲ呈
 セリ而シテ吏員ノ努力ハ遠巨離ニアリタル地洋丸
 佐渡丸ヲシテ一夜间ノ通信ヲ遅延セシメタル外ハ

比較的完全ニ各種ノ通信ヲ遂行シ浪速艦ノ救助ヲ
 レテ満足ニ近キ手配ヲ了セシムルヲ得タルヲ喜ブ
 モノナリ

今回ノ危急通信ニ関シハマナ丸ハ浪速艦ニ最モ
 近接シ居タルヲ以テ不断多大ノ尽力ヲ当局ニ与ヘ
 ラレタリ殊ニ二十九日ノ如キ早朝ヨリ夜半ニ至ル
 迄浪速当局間ニ外在シタル同船ハ良夕兩者ノ通信
 ヲ進捗セシメ夜間ニ終ケル一般通信ニ支障アラシ
 メザリシ如キハ特ニ感謝ノ意ヲ表スルヲ禁セサル
 ナリ

一浪速艦遭難ト當局

はあまの報告

遞信省

去ル六月廿六日午前十一時知理保以島北島東岸
 = 浪速艦坐礁シタル為メ當夜落石及全艦ノ通信
 多ク極メ公衆通信ハ為メニ凡テ送受不能ナリ
 キ翌ニ十七日夜ハ本船航進シテ浪速艦ニ近接セ
 ル為メ遭難通信ノ補助ニ従事ス浪速艦ノ火花ハ
 落石ニ明確ナラザルモノノ如ク通信困難ナルノ
 状ニアリ本船ニハ微弱ナリシモ明確ナルニヨリ
 全部臨時中継ヲナス尚全艦救助ヲ命セラレタル
 武藏艦(當時片岡灣ニ在リ)行至急報ヲモ引受
 ク
 廿八日夜ハ浪速艦ヘ祭着電報少ナカリシモ終夜
 全艦ニ注意シ敏活ナル連絡ヲ保ツニカム

0923

廿九日朝来全艦へ約三百哩ノ地照ニ接近シツル
ヲ以テ又連絡ヲ採リ全艦及落石ノ音信全部臨時
中継シ夕刻ニ至リ全ク終リス全艦救助ノ為メ遭
難地ニ向ケ航行中ノ巖島艦及遭難艦相互通信亦
全シ但シ巖島艦祭着ハ落石ニテ取扱ヒタリ
今夜全艦ニ注意セシモ喚呼ナリ音信ナキモノノ
如シ但シ救助ノ為メ急航セル武藏艦ハ本日午前
十一時遭難地ニ到着シ救助ノ手配ニ従事セリ

0924

水路誌

(本島下得撫島間)

南得撫水道、危險甚も強流アリテ渦流及激湍ヲ生ズ
南北兩島間ハ潮流強シ、古ク北島島ニ飲料少ク

北嶽(志ノ古也)報告

一海面上明記スル通り知理俣以島及武島嶺島、計ニ北島島
一岡原位墨リサリモ甚ク却シ且北島島六里同載位墨リサ
島方ニ偏在スヤノ疑ヒアリ

千島列島諸海峡、其極隘尤諸海峡有之能ク、サリモ五節
内外ノ潮流アリ而モ其勢力、往々海峡ノ南側先十里以外ニ
及ラズ故ニ距岸十里以内ヲ航行スル船ハ此等潮流、多大ニ
影響ヲ及ボ待物トスル矣(漂流法ハ北西乃至北東ニ走ル潮流
ニ至リ又最強時ノ流速五節)

海峽百之記

(在島嶼)

津難地附近水路概況

千島列島に於て霧多き六月下旬より島ノ諸海峡等
狹隘なるに在り潮流強ク其ノ節内外違ふ
知死保以島及武蔵嶺島に對し我知島ノ關係位置ハ漕及至六
國載位置ヲ南東方ニ偏在セリ

海軍

花時抄

0926



海軍

○ 鐵管修理中、栗橋丸(丸)を急工事、上二十九日
迄、午後出港、遭難地に向、戻

○ 栗東丸、職工約百人外、材料運搬、ヲ換取シ
栗橋丸、共ニ出港ノ事、由是

○ 船島、出航豫定、二十七日、室戸岬大港
北丸。函館ニ向ケルトアリ

花崎綱

0927